

令和7年4月14日
茨城県県民生活環境部環境政策課

いばらきフードロス削減プロジェクト 「食品残渣資源循環モデル形成支援事業」による 食品残渣の飼肥料化の取り組みをご紹介します！

茨城県が、フードロスの削減と物価高騰への対応を目的に令和6年度に実施した「食品残渣資源循環モデル形成支援事業」において支援を行った3事業者の取り組みをご紹介します。

食品製造工程で発生する食品残渣をリサイクル利用し、飼料又は肥料として有効活用する取り組みであり、今回の事業を通じて、2027年度（令和9年度）までに、食品残渣の利用量が年間約1,300トン増える見込み（2023年度比）です。

【事業者と取り組み】 詳細は別紙参照

○株式会社テルズ（飼料）

- ・所在地 東海村白方中央1-10-33（加工工場：東海村白方285）
- ・代表者 代表取締役社長 照沼 勝将
- ・取り組みの概要 自社の干しいも製造工程で発生する未利用部分（蒸かした甘藷の皮と身）を乾燥して家畜用飼料の原料を製造。飼料は、県内の畜産農家が利用。

○フジフーズ株式会社（飼料）

- ・所在地 千葉県千葉市美浜区中瀬2-6-1
（笠間リサイクルセンター：笠間市市野谷98-1）
- ・代表者 代表取締役 社長執行役員 武藤 与志巳
- ・取り組みの概要 自社の弁当・惣菜製造工程で発生する野菜等の残渣と、干しいも生産者から回収した未利用部分を粉砕、混合して家畜用の液体飼料を製造。飼料は、県内の畜産農家が利用。

○有限会社大洋土づくりセンター（堆肥）

- ・所在地 銚田市梶山2016-1
- ・代表者 代表取締役 栗原 豊
- ・取り組みの概要 野菜加工業者の残渣、古畳、畜産農家の家畜糞尿を破砕、混合、発酵させて堆肥を製造。堆肥は、県内の耕種農家や畜産農家が利用。

【令和6年度食品残渣資源循環モデル形成支援事業】

- ・目的：フードロス削減と物価高騰への対策を目的に、食品製造工程で発生する食品残渣を利用し、飼料等のリサイクル資源として有効活用する民間事業者を支援することにより、資源循環モデルの形成を図る。
- ・事業概要：飼料化等に必要な施設等整備に係る初期費用を補助
(補助率1/2以内。1者当たり上限500万円)

「食品残渣資源循環モデル形成支援事業」による取り組み

株式会社テルズ（干しいも未利用部分の飼料化）

【事業計画：目標2027年度（令和9年度）】

※カッコ内は2023年度比

- ・ **食品残渣のリサイクル量** 104トン/年（+104トン）
- ・ **飼料の製造量** 42トン/年（+42トン）

【特長】

- ・ 自社の干しいも製造工程で発生する未利用部分（蒸した甘藷の皮と身）をリサイクル利用し、家畜用飼料の原料となるフレーク製品を製造。
- ・ 製品（飼料）が県内の畜産農家で使われる資源循環モデルを構築。
- ・ 自社の干しいも未利用部分の処分に係る負担を軽減するとともに、輸入飼料の価格が高止まりする中、県内における国産飼料への転換にも寄与。

【イメージ】



【問合せ先】株式会社テルズ 加工工場 東海村白方285 電話029-352-2462

「食品残渣資源循環モデル形成支援事業」による取り組み

フジフーズ株式会社（弁当等製造残渣と干しいも未利用部分の飼料化）

【事業計画：目標2027年度（令和9年度）】

※カッコ内は2023年度比

- ・ **食品残渣のリサイクル量** 1,592トン/年（+1,081トン）
- ・ **飼料の製造量** 2,174トン/年（+1,476トン） ※加水

【特長】

- ・ 自社の弁当・惣菜製造工程で発生する米、パン、野菜等の残渣と、干しいも生産者の干しいも製造工程で発生する未利用部分（蒸した甘藷の皮と身）をリサイクル利用し、家畜用の液体飼料（リキッドフィード）を製造。本事業で導入した機械で粉砕を効率化し、残渣回収量と飼料製造量の増加を実現。
- ・ 製品（飼料）が県内の畜産農家で使われる資源循環モデルを構築。
- ・ 自社の野菜等残渣と干しいも生産者の干しいも未利用部分の処分に係る負担を軽減するとともに、輸入飼料の価格が高止まりする中、県内における国産飼料への転換にも寄与。

【イメージ】

干しいも未利用部分

粉砕ポンプ（県補助）

液体飼料

畜産農家

野菜等の残渣



自社工場から米、パン、野菜等の残渣を、干しいも生産者から干しいも未利用部分を回収

自社のリサイクルセンター（笠間市内）において、混合、粉砕等の加工を行い、家畜用の液状の飼料を製造

製造された飼料製品は畜産農家が利用

【問合せ先】 フジフーズ株式会社 生産技術部 東京都中央区日本橋3-10-5 電話03-6262-5168

「食品残渣資源循環モデル形成支援事業」による取り組み

有限会社大洋土づくりセンター（野菜等加工残渣の堆肥化）

【事業計画：目標2027年度（令和9年度）】

※カッコ内は2023年度比

- ・ **食品残渣のリサイクル量** **583トン/年（+100トン）**
- ・ **堆肥の製造量** **589トン/年（+47トン）**

【特長】

- ・ 野菜加工業者から発生される残渣と、古畳、畜産農家から発生される家畜糞尿をリサイクル利用し、農業用堆肥を製造。 本事業で導入した機械で運搬、積込み等の作業を効率化し、残渣回収量と堆肥製造量の増加を実現。
- ・ 製品（堆肥）が県内の耕種農家や畜産農家で使われる資源循環モデルを構築。
- ・ 野菜加工業者の食品残渣、古畳、畜産農家の家畜糞尿の処分に係る負担を軽減するとともに、化学肥料の価格が高止まりする中、県内における堆肥の利用促進にも寄与。

【イメージ】

野菜等の残渣



古畳



家畜の糞尿



場内運搬積込
用車両系機械
(県補助)



堆肥



野菜加工業者からの残渣のほか、古畳、畜産農家の家畜糞尿の回収・処分を受託

自社の発酵施設において破碎、混合、発酵の加工を行い、堆肥を製造

製造された堆肥は耕種農家や畜産農家が利用

【問合せ先】 有限会社大洋土づくりセンター 銚田市梶山2016-1 電話0291-39-6770

<参考>

【いばらきフードロス削減プロジェクト】（2021年7月～）

茨城県は全国有数の農畜産物や加工食品を産出する食料供給県であることから、事業系フードロスの削減に取り組んでいます。

食品関連事業者や生産農家を対象に、賞味期限間近の食品や規格外農作物等の活用を促進するとともに、フードバンクへの食品提供やリサイクル飼料化の研究を行っています。

○4つのプロジェクトを一体的に推進

- ・プロジェクト1 食品製造、卸、小売ロス対策
- ・プロジェクト2 外食ロス対策
- ・プロジェクト3 生産農家ロス対策
- ・プロジェクト4 食品廃棄物の飼料化

○いばらきフードロス削減プロジェクトマッチング支援コーディネート窓口

（2022年6月～）

フードロスを抱える事業者と活用したい事業者を対象とする、無料のマッチング支援コーディネート窓口を設置し、相談を受けてマッチングしています。

◇主なマッチングの実績

- ・賞味期限間近な食品や規格外のリンゴ等を子ども食堂等に提供
- ・規格外のレンコンをホテルと取引

水戸市三の丸1-5-18（株式会社常陽産業研究所内）

月曜～金曜 9時～17時（祝日・年末年始は除く。）

TEL：029-233-6734 E-mail：no-foodloss@joyobank.co.jp

○リサイクル飼料化研究会（2022年12月～）

食品残渣やこれまで活用が進んでいない飼料資源（未利用資源）のリサイクル飼料化に取り組んでいます。

◇主な飼料化の実績

- ・ニンジン端材を乳牛用飼料化

○干しいも残渣資源循環モデル形成支援事業補助金（2023年度）

・目的：フードロス削減と物価高騰への対策を目的に、本県特産の干しいもの製造工程で発生する未利用部分を利用し、飼料等のリサイクル資源として有効活用する民間事業者を支援することにより、本県独自の資源循環モデルの形成を図る。

・事業概要：飼料化等に必要な施設整備や機械等導入に係る初期費用を補助

（補助率2／3以内）

- ・2事業者（飼料化1、肥料化1）に交付。
- ・2026年度までに、干しいも未利用部分の利用量が年間約2,400トン増える見込み（2022年度比）。

○いばらきフードロス削減推進事業者協議会（2024年8月～）

食品関連団体・事業者、有識者等と、事業系フードロス削減取組の拡大方策を検討しています。